

高木復興大臣ぶら下がり記者会見録

(平成28年6月21日(火) 15:25～15:30 於) 東京都千代田区)

1. 発言要旨

今日は交流ミーティング in 東京を視察させていただきました。

まず、ヤフーさんのアイデアソンという、本当に新しい手法、これまで私は知らなかったのですが、そういったことをやっていたらいいなと思いました。ドローンによる撮影も活用して、参加者に現地状況を体感してもらいながら、広くアイデアを募っておられました。民間企業が地域の自治体と連携して一般の方々にも広く参加いただく企画であって、このような官民連携の取組が進むということは大変望ましいことだというふうに感じました。

また、地域活性化センターの、このワークショップでありますけれども、鹿子踊(ししおどり)という東北の伝統芸能でございますが、私も先ほど、衣装というのでしょうか、頭(かしら)というのでしょうか、かぶらせていただいて、伝統の重みと、頭(かしら)の重みというものを感じました。

伝統芸能というのは、もちろん観光にも資すると思えますけれども、やっぱりコミュニティの再生というのが東北の復興には欠かせない課題でございますので、コミュニティ再生、あるいは内外の人々の交流、そういったような復興の過程でも重要な役割を果たしていることを実感させていただきました。

全体としては、この交流ミーティング in 東京、28日まで開催してございますので、引き続き東北で活躍する人や、東北の魅力を発信していきたいと考えております。

また、26日の日曜日には「女性活躍」DAYでございますので、これもまた被災地で活躍する女性をお呼びしてのパネルディスカッション等を実施いたしますので、是非皆様方もまた取材もしていただきたいと思えますし、広く報じていただきますと大変有り難いと思えますので、どうぞよろしく願いしたいと思えます。

私からは以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 鹿子踊(ししおどり)は岩手だけではなくて宮城県にも昔からある伝統芸能なのですが、復興過程においては、やはり観光の重きを今、置いていると思うんですけれども、実際に体験なさって、現地の方と一緒に交流なさって、どのような思いを持たれましたでしょうか。

(答) 東北には、ああいった伝統芸能、それから祭りだとか、あるいは民話だとか、ほかの日本各地にいろいろなものがありますけれ

ども、そういった大変すばらしい観光の資源というようなものがありますから、そういったものを十分に活用して、あるいはアピールして、一人でも多くの方が東北を訪れることで観光というものがしっかりと復興していくこと。それからまた、復興に頑張っている東北の人を元気づけていただく、そういうことになれば大変いいなというふうに思います。

(問) その前段階でアイデアソンということで、いろんなアイデアを実際に御覧になって、仙台ですと芋煮の話なんかも出てくるんですけども、実現性はどうかといった話があったのですが、実際、いろんなアイデアがいろんなところ、異業種から集まって出てきていることに関しては、大臣はどのようなお感じを持たれたでしょうか。

(答) 私たち行政機構というのでしょうか、どちらかというとい硬い人の集まりだと思っています。仙台市にしても宮城県にしても、もちろんそういったような方が中心になって復興していただいているわけでありましてけれども、民間の方、しかも今日は本当に若い方が参加していただいて、アイデアソンという、いろんなアイデアを出して、それが突拍子もないことだったり、これはどうかなと思うこともあるんでしょうけれども、ややもすると、またそういうような発想から、ひょうたんから駒と言ってはちょっと失礼かもしれませんが、新しいアイデアからすばらしい発想が生まれてきて、そして、それが本当に実現していくということにもなると思いますし、これまでの既成の考え方にとらわれないその土地の利用の仕方というものが、新しいものが出てくる。正に新しい東北という、そのテーマにふさわしい手法だと思いますし、いろんなアイデアが出ていたというふうに思います。

(問) 今日の鹿子踊（ししおどり）を指導してというか、衣装のサポートをしてくださった方々は、岩手と、被災地と東京をつなぎながら交流を深めていこうということで取り組んでいる若手の皆さんなんですけれども、その地域の若者に期待すること、何か今日お感じになったことがあれば、是非お聞かせください。

(答) 本当に若い人たちが自分たちのふるさとを正に取り戻す、そして、被災以前よりももっと元気にするんだというような意気込みを感じましたし、こうした機会を通じて首都圏、東京は日本の中心ですけれども、そういったところで発信する。そしてまた皆さん方もそういったものを発信していただけるというふうに思いますし、東京でそういったようなことを若い人たちが主体的にやっていただけというのは、大変頼もしいというふうに思いますし、ああいった若者がいれば、東北の復興は必ず成し遂げられるというふうに思います。

私たちは、そうした皆さん方がしっかりとそういう活動ができるように支援をさせていただく、一緒になって頑張っていくという、そういうことが大事なんだということを今日は思いました。
どうもありがとうございました。

(以 上)